

特集 手関節尺側部痛をきたす疾患の診断と治療

introduction

手関節尺側部痛は手外科医でなくても、日常診療で頻繁に遭遇する訴えである。一方、手外科医にとっても各自の診断や治療方針にこだわりがある疾患で、意見が異なることが多い。また、複数の病態が合併していることも多いように思う。私も身体所見、画像、手関節鏡などの所見を総合しても診断と治療に迷うことがある。また、治療後に痛みが残り、その原因が不明な場合もある。“たかが手関節尺側部痛、されど手関節尺側部痛”。奥が深く、いまだ解明されていない部分がある。

本号の目的は、手関節尺側部痛に関する最新の診断アプローチ、代表的疾患の概説、治療法の実際について、各パートで最も活躍されている第一線の先生に執筆をお願いした。図や画像を多く入れていただき、理解が進むように編集されている。一読してみると、「なるほど」とうなずく点や「えっそうだったのか」という点が随所にある。じっくりと最初から最後まで読んでみたくなる内容に仕上がっている。私の落ち度であるが、手根不安定症についての項を入れることができなかった。そのことを差し引いても、一線の整形外科医、手以外に専門領域をもつ整形外科医、そして手外科を目指す若手医師、さらに手外科専門医まで、どなたにも有用な内容である。

手関節尺側部痛を訴える患者がおられたら、本号に目を通していただくことをお勧めする。診察、診断、検査、治療法についての方針を立てる際のお役に立つと確信している。

信州大学医学部運動機能学教室
加藤博之